



愛・地球博記念公園

平成26年6月26日(木)

愛知県建設部 公園緑地課 協働グループ

担当 桜井・鷺見

内線 2675・2618

電話 052-954-6491 (ダイヤルイン)

愛知県立大学 学術情報部 研究支援・地域連携課

担当 三宅

電話 0561-76-8843 (ダイヤルイン)

## 愛・地球博記念公園と愛知県立大学が 包括連携に関する協定を締結します

愛・地球博記念公園と愛知県立大学は、相互の発展に資すること、また地域社会の発展に寄与することを目的として、連携、協力に関する協定を締結します。

両者は隣接しており、これまでも、県立大学が愛・地球博記念公園において自然や文化をテーマとしたイベントなどを開催したことや、県が主催して公園で行う大規模イベントの際のスタッフ駐車場として、大学駐車場を使用したこともあるなど、相互の施設利用を行ってきました。しかし、その内容は限定的なものにとどまっていました。

今回の包括連携に関する協定の締結により、学生による実習の場、研究成果の発表の場として公園の利用が促進され、またイベント時における学生ボランティアの参加などにより、公園の利用者の増加や、来園者サービスの向上につながることを期待できます。

### 1. 日時

平成26年7月12日(土) 16時30分から17時まで

(モリコロパーク夏まつり開催期間中)

### 2. 場所

愛・地球博記念公園 地球市民交流センター 屋内広場内ステージ

所在地：長久手市茨ヶ廻間乙1533-1

電話：0561-64-1130 (代表)

### 3. 協定締結式

～馬頭琴の演奏～

(1) 開会の挨拶 (行事企画運営委員長 亀井伸孝 (愛知県立大学))

(2) 協定に至る経緯と内容説明 (愛知県立大学 地域連携センター長 戸田尚宏)

(3) 協定書の締結及び調印者挨拶

愛知県立大学学長 高島 忠義 (たかしま ただよし)

愛知県尾張建設事務所長 広浜 全洋 (ひろはま まさひろ)

公益財団法人 愛知県都市整備協会理事長 川崎 昭弘 (かわさき あきひろ)

- (4) これまでの取組について（放送大学教授 愛知県立大学名誉教授 稲村哲也）
- (5) これからの取組について（愛知県立大学情報科学部教授 小栗宏次）
- (6) 閉会の挨拶（行事企画運営委員長 亀井伸孝（愛知県立大学））

#### 4. 記念イベント

- 情報科学部によるロボット展示・体験  
（時間：12日及び13日の16時から20時まで、場所：地球市民交流センター体験学習室1）
- 国際関係学科「旅の写真展」  
（時間：12日及び13日の16時から20時まで、場所：地球市民交流センター屋内広場）
- 「ゲル」の中でのモンゴルの民族衣装体験や馬頭琴の演奏  
（時間：12日及び13日の16時から20時まで、場所：地球市民交流センター屋内広場）
- ESD 関連イベント UNEP（国連環境計画）の子ども環境ポスターを活用したワークショップ  
「子どもの絵で世界一周！ 一日学芸員をやってみよう」  
（時間：12日及び13日の16時から20時まで、場所：地球市民交流センター屋内広場）

（参考）

##### 1. 連携の目的

愛知県立大学、愛知県尾張建設事務所及び公益財団法人愛知県都市整備協会が、包括的な連携のもと相互に協力し、愛・地球博記念公園と愛知県立大学の相互の発展に資すること、また地域社会の発展に寄与することを目的としています。

##### 2. 連携内容

- (1) 地域連携活動など実践活動に関すること。
- (2) 公園の活性化に関すること。
- (3) 教育・研究に関すること。
- (4) その他、3者が協議して必要と認めること。

##### 3. 連携・協力の事例

- (1) 既に行われているもの

県立大学側が主催したものとして、平成22年度に「せかい SATO(里)フェスタ」、平成23年度に自然と文化の大交流「森と草原の地球教室」などを愛・地球博記念公園（以下、モリコロパーク）の地球市民交流センターで行いました。

また、県側が主催してモリコロパークでイベントを行う際のスタッフ駐車場として、県立大学駐車場を使用しています。

- (2) 今後期待できること

豊かな自然と充実した施設と人的資源を有するモリコロパークを、県立大学の課外活動のための「学外キャンパス」、地域連携活動に踏み出す「ステップ・アウト」の場として活用し、これまで以上に教員と学生の教育・研究や実践活動の活性化を図り、その情報共有、活動実績の蓄積をはかり、同時に愛知県立大学における地域連携活動の場を広げることが期待できます。

県立大学の学生による実習の場、研究成果の発表の場として公園の利用が促進され、またイベント時における学生ボランティアの参加などにより、モリコロパークの利用者の増加や、来園者サービスの向上につながることを期待できます。